

足立区教育委員会 様

足立区立六月中学校
校長 宮下 みどり

令和 7 年度 教育課程について (届)

このことについて、足立区立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で知性と感性に富んだ豊かな人間性を培い、国際社会に貢献できる生徒の育成を目指し、次の目標を定める。

- 礼儀を重んじ他を思いやる生徒 (徳育)
- 自ら考え創造する生徒 (知育)
- 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒 (体育)

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

Society5.0 時代の到来や急激に変化する社会状況の中で主体的に課題解決できる資質・能力を身に付けさせ、教育活動全体を通して家庭や地域社会と連携し個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、心身共に健康で豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となる意欲と活力に溢れた生徒を育成する。

1 人権と生命を尊重する教育の推進



- ・教師が生徒理解に努めその人格を尊重し、認める活動により教員の危機管理意識を向上させ、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める。
- ・道徳を中心とした教育活動全体を通し、生徒が生命 (いのち) の安全教育と人権に関する知識・能力を育むことで人権意識を向上できるようにする。
- ・朝読書など学校全体で読書活動を推進し、生徒の考える・感じる・想像する・表す力を育むことでよりよく生きる力を身に付ける。

2 基礎的・基本的な学力の定着



- ・足立スタンダードに基づいた授業実践による主体的・対話的な学びから習得した基礎的、基本的な知識や技能を活用し、自力解決・協働学習により思考力、判断力、表現力を高める。
- ・小学校での学習状況や生徒の発達段階を把握し、生徒一人一人の実態に応じて学習活動や学習方法を意図的・計画的に構築し「わかる授業」を実現する。
- ・一人 1 台端末を効果的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。

3 不登校・不適応対応



- ・教育相談機能の充実を図るとともに魅力的な環境を整備することで、不登校の初期・早期発見に努め未然防止を図る。また S C・S S W・関係機関との連携を深めて学校生活と家庭生活の両面から支援する。いじめ防止のため「学校いじめ防止基本方針」を定め、組織的に対応する。
- ・特別支援教育の視点から視覚的・聴覚的な配慮と学びやすさへの配慮を行い、授業のユニバーサルデザイン化を進めることにより、支援が必要な生徒にとっても分かる授業の指導と支援を実施する。

4 地域と連携した教育活動の推進



- ・コミュニティ・スクールとして、地域関係者と連携して、目指すべき生徒の姿や学校の課題を共有し、地域や学校の特色を生かした質の高い教育の実現を目指す。
- ・開かれた学校づくり協議会による啓発活動により保護者の学校教育への理解を進め、生徒の新しい時代を切り拓く「たくましく生き抜く力」や「豊かな心」を共に育てていく。

2 指導の重点

(1) 人権教育

- 道徳教育を中心とし生徒に自分の良さや可能性を認識させるとともに、表層的ダイバーシティ・深層的ダイバーシティを含めた多様性を認め合い、尊重する教育実践を行う。
- 6月にDVDめぐみ活用した北朝鮮による拉致問題について学ぶとともに、12月10日から16日までの北朝鮮人権侵害問題啓発週間を活用し、全学年で理解を深める。
- 人権と生命を尊重する教育を推進し、就学前の「プライベートゾーンの理解」を起点に、発達段階に応じた連続性のある、生命（いのち）の安全教育に取り組む。

(2) 各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動

ア 各教科

- ① ICT モデル校としての実践を継続し、新たな時代に対応した「デジタルを活用したこれからの学び」を研究・推進する。教師はクラウド上で生徒一人一人の学習状況を把握し、支援・指導する。
- ② 従来の一斉講義型授業スタイルから複線型の学習指導へと転換し、生徒一人一人が「自分の課題を設定」「課題への取り組み方を自分で決める」実践を通し、生徒の学びたい意欲を高める。また「学びのプロセス」「思考のスキル」「デジタル活用」をポイントとして、生徒が自らの学びを自分事として捉え、自発的に他者と関わり学びを深められるようにする。
- ③ 足立スタンダードを基に授業改善するために「何を学ぶか」1単位時間や単元の見通しをもたせる
- ④ 毎時間学習課題（ねらい）を明確に設定し、生徒に提示する。その上で個別学習と協働学習を取り入れた主体的・対話的な学びの実現を目指し「どのように学ぶか」を意図した学習を展開する。そして「何が分かったか」「できたか」の視点で授業をまとめ振り返り、生徒自身が一時間の学びを実感し、次時への展望をもてるようにする。
- ⑤ 習熟度別指導ガイドラインに基づき、全学年の数学科・英語科において、習熟度別少人数授業を展開する。単元別に学習の定着度テストを実施し課題の明確化と補充を図り、次の単元への学びの意欲を向上させる。
- ⑥ 学校司書を活用し、年度当初に図書館オリエンテーションを実施する。図書委員会活動を充実させ、読書量の向上を図る。図書館を使った調べる学習コンクールへの応募を推奨するとともに、学び方の指導を工夫する。
- ⑦ 教科部会を通して、教師集団がAIドリルを効果的に活用できるようにする。また「繰り返し学習」や「学び直し学習」等を放課後補充や家庭学習で取り組ませる。
- ⑧ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、集団生活における多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等などの取組を、大会後も長く続く教育活動として発展させる。

○国 語

言語活動を通して、思いや考えを正確に伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。そのために、自己の考えをすぐに共有したり、他者の考えに広く触れたりすることができるよう、ICTを効果的に活用した授業を展開する。また読書活動の推進や語彙力を伸ばす指導を継続的に行うことで、言葉に対する感覚を磨き、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりする力を育成する。

○社 会

社会的事象に対して主体的に取り組む態度を育成するために、ICT機器を活用した教材提示をする。教材の提示を工夫したり、学力定着の確認のための小テストを定期的に行ったりして、基礎的・基本的な知識の習得を目指す。また、基礎的・基本的な概念を身に付けさせるために問題解決型の学習を計画的に推進する。思考力・判断力・表現力の視点では、地図やグラフ、統計資料等から読み取る力の育成を図る。さらに公民的分野の基本的な人権の学習において、権利と義務についての理解を深めさせるとともに、主権者教育の推進を図る。

○数 学

日常生活に必要な数量的な関係を理解し、それを処理する基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。そのために、問題演習を中心に、補充的な学習と発展的な学習を行う。習熟度別指導では、それぞれの生徒の習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法を工夫して着実な定着を図る。また、数学的活動を通して、根拠を明らかにし、道筋を立てて説明するなどの話し合い活動に重点をおき、数学的な見方・考え方を養う。そして、話し合い活動を充実させ、生徒の思考の変容を促し、深い学びの実現を図る。

○理 科

ICTを活用した話し合い、学び合い活動を充実させる。生徒が自宅で事前に問題を解き、解答を動画で記録させ、授業ではその発表から進める。「反転授業」を適宜取り入れる。自然科学に対し、自ら考え観察・実験をすることで、科学的な見方・考え方を身に付けさせる。また、繰り返し問題演習をさせ、基礎学力の定着を図る。その基礎学力を基に科学的思考力を養い、考え方を実生活で役立てられるような応用問題に取り組ませる。

○音 楽

題材の早い段階で知識・技能の指導に重点を置くことで、生徒の「思考力、判断力、表現力」を育てる。ICT機器を活用しながら音楽的な見方・考え方を指導し、生徒が主役となった「なぜ」「どうして」「どうやって」の〈個〉の学習活動から〈集団〉の表現活動につなげていく。

○美 術

教材を工夫し、生徒の製作過程や努力を認めることで、関心・意欲を高める。適切な評価と課題提示により、生活の中に美術を取り入れていく発想と目標の成就感を育てる。また多様な作品の鑑賞や言語活動を通して幅広く他者と交流し、視点を広げさせる。

○保健体育

授業改善を通して様々な運動の基礎的な知識と技術を習得させ、生涯に渡ってスポーツに親しみ、楽しもうとする態度を養う。また、個々の生徒が意欲的に楽しみ、取り組める課題を設定して体力向上に取り組む。特に、基礎運動では、体操やストレッチ、ボール投げ運動等を取り入れることで、柔軟性と投力の課題を克服する。柔道では、基本となる技の安全に留意した指導とともに、武道の伝統的な考え方を理解させる。

○技術・家庭

作業・制作過程や授業終了時にChromebookを活用した写真撮影で記録をさせる。またレポート記入と併せて、授業の振り返り時間を大切にす。実技指導においてはICTを活用し、工具や調理器具の使用方法などを動画で配信して分かりやすい授業を展開する。実践的・体験的な活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技術の確実な定着を図り、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造する能力と実践的な態度を育成する。用具や器具の管理を徹底し、安全に配慮した指導を行う。

○外国語（英語）

実用的な英語習得に向け、「目的・場面・状況」を設定した上での言語活動を中心とした授業展開を研究し、4技能をバランス良く身に付けさせるとともに総合的な英語力の向上を図る。学習指導要領に基づき小学校の外国語活動及び外国語科との連続性を意識した授業計画を立て、英語で考え、活用する態度の育成・意欲の向上を図る。また、話すことにおいて「発表」や「やりとり」の即興性を活かした言語活動を意識した授業展開を目指す。各単元目標に照らし、各授業のねらいを明確にした授業展開をし、タブレットを活用しながら4つの技能を統合的に指導し、基礎的な知識の習得と、より実践的な運用能力の向上に取り組む。生徒相互の発話を促す機会を設定し、個人の発話量を増やす指導を行う。

イ 特別の教科 道徳

○道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を広い視野から多面的・多角的に考え、命あるものを尊重し、大切にしようとする態度の育成を図る。道徳教育推進教師を中心に作成する計画的・系統的な年間指導計画に基づき見方や考え方に気付く中で道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を養う。また多様な資料を活用し「考え、議論する」活動を行いながら自己を見つめる力の育成を重視する。

○道徳授業地区公開講座では、講師を招聘し学校・家庭・地域社会における道徳教育の在り方を保護者や地域とともに考え、道徳教育に対する理解を深め相互の役割について理解を図る。

エ 総合的な学習の時間

○主に第1学年は意欲的に課題を見つける態度、第2学年は粘り強く課題を解決していく能力、第3学年は積極的に表現できる資質や情報を処理・活用する能力を育成する。

○言語活動や表現活動、体験学習を充実させるために第1学年では環境教育、第2学年では国際理解教育、第3学年では福祉教育に取り組ませ事前・事後学習を通して整理・分析して考え、まとめ・発表し、自身の考えを深め、発展させ探究的な学習活動を計画的に実施する。

○環境教育では、学校生活とSDGsと関連付け生徒が視野を広げられるような活動を取り入れる。

オ 特別活動

- 学級活動を充実させ、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しをもち、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。
- 学校行事や学年行事の実行委員会活動を通して、同学年や異年齢集団の中で、生徒が自ら課題等を見だし、その解決方法についての合意形成を図り、協力して目標を達成していくことで、生徒の自発的、自治的な活動を充実する。
- 生徒会本部役員を中心に各専門委員会の活性化、活発化を図り、きまりの見直しや各委員会の具体的な活動内容について生徒会朝礼での発表の場を計画的・継続的に行い自治活動能力の向上を図る。

(3) 生活指導

- SSR 開設のパイオニア校として、全教員で不登校未然防止の対策にあたる。生徒の学びたい、人と関わりたい、登校したい、という個に応じたニーズを的確に捉えられるようにする。担任・副担任全員が SSR 利用生徒とコミュニケーションを取り、キャリアにつながる話題を提供し、生徒との絆を育む。
- 「見過ごさない」「見逃さない」「見放さない」「見落とさない」生活指導を念頭におき、生活指導部を中心とした報告・連絡・相談・記録を徹底した組織的な対応を推進する。
- 日常の学校生活から社会規範に基づいた心を育て、自らを律し、行動できる力を育成する。
- ソーシャルスキルを科学的に捉えるWE B Q Uを実施し、生徒の学校生活意欲について教師が理解を深め、学級経営の改善を実践し生徒と生徒、生徒と教師の関係を構築し学校生活を満足できるものとする。また、生徒の多面的な実態把握を行うため、校内研修会でQUの活用法を共通理解する。
- 足立区いじめ防止基本方針を受け「学校いじめ防止基本方針」を基本に「学校いじめ防止対策委員会」を機能させ、人権尊重の視点に立つ指導を強化する。年3回のいじめアンケートの実践を通じて未然防止、早期発見、早期対応、早期解決を学校の対応と家庭とで連携していく。
- 生活指導部が中心となりセーフティ教室、避難訓練、救命救急訓練等の命を守るための安全教育を充実させ、自己の生活を振り返り、他者と協力して、適切に判断し行動することができるようにする。
- 教育相談機能の充実とともに、特別な支援を要する生徒には合理的配慮に基づき個別的教育支援計画や個別指導計画を作成し、支援と指導内容を構築した上で、SCやSSW、関係諸機関と緊密に連携する。また、サポートチームをつくり校内委員会やケース会議を開催し組織的に対応する。
- 「中学生消防隊」の活動を継続・発展させることで、地域防災の担い手としての自覚を高める。
- 西新井警察署、高齢者福祉施設「ゆうあいの郷」とともに結んだ「災害時パートナーシップ」の活動を継続させ、災害発生時には進んで地域に貢献しようとする自覚を育てる教育を推進する。
- SNS学校ルールについて、各学年の発達段階や生徒の実態に合わせて継続的に指導する。生涯に渡り、正しく行動できるネットリテラシーを身に付けさせる。
- SOSの出し方に関する教育として、DVDを活用しながら生徒自身が悩みの解決方法や、より良い集団生活を送る意識を高めさせる。

(4) 特別支援教育

- 生徒一人一人の実態に基づき指導内容を検討し、必要とする生徒の個別指導計画・個別的教育支援計画を作成する。また、教材教具等の工夫やユニバーサルデザインに基づく環境の改善を行い視覚的・聴覚的な配慮と学びやすさを追究し、日々の生活に生かすための指導の充実を図る。
- 特別支援学校や専門家等の支援を積極的に活用し、研修を通して教員の対応力を高め、発達障がい(LD、ADHD等)のある生徒への適切な指導を行うとともに、特別な支援が必要な生徒についての理解を深める。また、「障害者差別解消法」に基づき合意形成の下、合理的な配慮の提供に努める。
- 特別支援教室では対人関係構築能力の育成を図るため、教師との対面形式で教材や教具を工夫し、生活内の場面や場所を設定し生徒自身の気付きを促す指導を指針とする。
- 副次的に学籍を置く生徒との直接及び間接的な交流を実施することで、相互を助け合う気持ちや思いやりなど、豊かな心の育成を図る。

(5) キャリア教育

- 将来の社会的・職業的自立に向け、生徒の進路選択を実現する能力や態度を育て、これからの学びや自己の生き方を見通し、生涯にわたりキャリア発達を促す教育を推進する。
- 「夢デザインシート」を活用し、職業の社会的意義と自分の適性の理解に努め、具体的に将来の進路選択や適性に応じた職業選択ができるよう計画的な指導を行う。
 - ・第1学年で、自己理解 TGG 学習を通して、自分と社会の関わりを考え、進路選択の可能性を理解する。
 - ・第2学年で、職場体験学習や上級学校訪問の実施を通して、卒業後の進路選択の具体的な目標を設定する。
 - ・第3学年で2年間の学びを総合し卒業後の生き方を見据えて、社会性を身に付け社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力を高める。

(6) 学校としての特色ある取組

- 全教科・全学年の授業で、Chromebook のクラウド上のアプリを活用した学びを実践する。
- 設置3年目となる SSR について、SpecialStudy や SpecialSupport の理念のもと、他校の SSR と情報共有しながらスモールステップルームの運営を充実させる。生徒がオンラインやアバターを活用した仮想空間での活動を通して多様な学びにつながるができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を拡充する。教室に入りづらい生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる安心感をもたせ、不登校を未然に防止する。
- デジタル教科書やA I ドリルを使い授業及び家庭学習で効果的に活用し「わかる授業」「魅力ある授業」を実現する。
- 授業での学習指導の充実と全校体制による放課後補充教室の実施により、生徒一人一人の実態に応じた学力向上及び基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、全ての教員が指導を行うこととする。
- 各教科のコンテストの実践を通して学力の定着の機会とするとともに、その後の分析を行い、基礎学力の定着と自ら学ぶ態度を育成する。
- 学校教育活動全体の指導を通して、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かし協働する力、社会貢献する態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの資質・能力の育てる教育活動の充実を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる生徒を育む。
- 食育指導を通し望ましい食事マナーの定着と生産者や調理員など周囲の人への感謝の念や、配慮を身に付けさせる。また、全校生徒に食物アレルギーに対する理解や対応を学ばせる食育を実施する。
- コミュニティ・スクールとして、開かれた学校づくり協議会の提案を審議承認し、以下の活動内容を支援する。
 - ・連携小学校2校の開かれた学校協議会と連携し3校連携事業を実施し、地域と保護者との学習活動を推進する。
 - ・受験期に、3年生対象の一斉面接練習において、協議会の方々に面接官役をお願いする。
- 定期的な補充教室（「土曜寺子屋（ドテラ）」等）を実施し、学力の定着を図りながら大学生ボランティアの人材を活用し大学という将来像を生徒に抱かせる。
- 教員の教材研究と生徒理解の時間確保のために毎月1回程度、「あだちからの日」を設定して教員の視野を広げ指導力を育成する。